

第130回春期大会開催のご案内

第130回春期大会は、大阪大学吹田キャンパスにおいて下記の日程で開催します。プログラムは3月号に掲載します。

会 期	(1) 研究発表講演会	平成28年5月28日(土)、29日(日)
	(2) ポスターセッション	平成28年5月28日(土)
	(3) 定時総会、表彰式	平成28年5月28日(土)
	(4) 市民フォーラム	平成28年5月28日(土)
	(5) 懇 親 会	平成28年5月28日(土)
	(6) カタログ・機器展示	平成28年5月28日(土)、29日(日)
	(7) 見 学 会	平成28年5月27日(金)
	(8) 企 業 交 流 会	平成28年5月28日(土)、29日(日)

大会会場 大阪大学吹田キャンパス (〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1)
阪急電車千里線北千里駅(終点)下車 東へ徒歩約15分

懇親会会場 千里阪急ホテル 仙寿の間 (〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町2-1 Tel (06) 6872-2211 (代表))
北大阪急行電鉄(地下鉄御堂筋線と連結)千里中央駅(南改札口)から東南東へ徒歩約5分

第130回春期大会講演募集

講演申込締切 平成28年1月14日(木) 23:59までにWeb申込

概要集原稿締切 平成28年3月17日(木) 13:00事務局必着

講演内容：講演は原則として未発表のもので論文としてまとめたもの。

講演形式：口頭発表(一般セッション、テーマセッション)、またはポスター発表(ポスターセッション)

発表方法：(1) 口頭発表の講演時間は、原則として、発表15分、討論5分です。

(2) ポスター発表の在席時間は1時間30分で、ポスターは翌日12:00まで展示します。

(3) 口頭発表について、プロジェクトのみ用意します(PCは持参)。

(4) 英語での発表も可能です。

申込資格：発表者は本学会会員に限ります。非会員の方は、入会手続きをお願いします。

申込方法：軽金属学会ホームページ：<http://www.jilm.or.jp/>からお申込下さい。

(1) インターネットサービスに新規登録する

(2) 「講演大会・国際会議」→「講演大会」→「募集中の大会」をクリック

(3) 「講演申込」画面の内容に従い、講演申込を行う

※ 講演発表に伴い入会される方は、12月中に入会申込書とともに本年度分会費を送付下さい。

送付の際は、現金書留にて、入会申込書とともに本年度分会費を同封のうえ、「講演申込のために会員番号の事前連絡を希望」とのメモを必ず添付して下さい。

※ 講演申込にあたって、講演形式を、口頭発表/ポスター発表/どちらでもよい/テーマセッションから選択下さい。口頭発表またはどちらでもよいを選択した場合は、続いて講演分類を選択下さい。

※ 第127回より講演分類と選択方法を変更しました。大分類(対象材料)および5つの小分類(現象、用途、検出・解析方法、目的、材料形状)からそれぞれ該当するものを選択下さい。従来と異なる切り口でのプログラム編成を考えています。

※ ポスターセッション充実の目的は、口頭発表によるパラレルセッションを可能な限り解消するためであり、50件程度のポスター発表を見込んでおります。次頁のポスター発表募集をご覧下さい。多くのポスター発表申込を期待しております。

講演申込費：2,000円(消費税込) テーマセッション、ポスターセッションも同じです。

(講演申込と同時に郵便振替または現金書留でご送金下さい。)

講演申込費は講演申込事務にかかる費用です。講演発表者をはじめ、大会に参加する方は、別途、大会参加登録が必要です(大会参加費は予約申込の場合、正会員6,000円、学生会員3,000円です。詳細は(iv)ページをご覧ください。)

郵便振替口座番号：00100-3-66805 (加入者名：一般社団法人軽金属学会)

問 合 先：一般社団法人軽金属学会 事務局 〒104-0061 東京都中央区銀座4-2-15 塚本素山ビル6階

Tel (03)3538-0232 Fax (03)3538-0226 E-mail: shomu@jilm.or.jp

講演申込費の振込みについてお願い

事務局での入金確認のため、参加者ご本人以外、例えば、大学、企業等から講演申込費を銀行振込みされる場合は、必ず、①申込者名および申込受付No、②振込日、③振込金額、をFax: 03-3538-0226またはE-mail: shomu@jilm.or.jpにご連絡ください。ご協力を宜しくお願い申し上げます。

第130回春期大会ポスター発表募集

軽金属学会講演大会のポスターセッションを充実させております。
—学界、業界を問わず奮ってご応募下さい—

- * 優秀ポスター発表賞を**軽金属学会会長名で表彰**
- * 表彰者を学会誌「**軽金属**」および「**学会ホームページ**」に写真入りで紹介
- * **学界、業界を問わず**、**35歳以下**の正会員からのポスター発表も表彰の対象
- * ポスター発表時間：**1時間30分** 十分なディスカッションが可能

実施方法

- (1) 対象者：正会員，学生会員の希望者。ただし、**同一発表者による複数のポスター発表はできません。**
- (2) ポスターサイズはA0版（幅841mm×高さ1189mm）が標準。ポスターを貼るパネル1枚を予定しています。パネルの前に机は置けません。
- (3) 在席時間は1時間30分とします。ポスターは9:30から12:00までに掲示を済ませ、翌日12:00まで展示します。15:00以降に残っているポスターは撤去します。
- (4) 概要集に掲載しますので、講演発表者と同様、概要原稿を提出して下さい。

講演申込費：2,000円（消費税込）（ポスター発表申込と同時に郵便振替または現金書留でご送金下さい。）

第130回春期大会テーマセッション講演募集

第130回春期大会では、下記の3テーマでテーマセッションを企画しました。テーマセッションは、キーノート講演と一般講演で構成され、充実した討論を通じて参加者相互の実りある情報交換の場を提供することを目的としています。奮ってご応募ください。

テーマ1：「難燃性マグネシウム合金展伸部材創製のための最新技術開発4」

趣 旨：汎用マグネシウム合金（Mg-Al系合金等）にカルシウムを添加した合金（難燃性マグネシウム合金）は、汎用マグネシウム合金よりも著しく高い難燃特性を有するため、高い安全性が必要とされる鉄道車両構体等の輸送機器や建築部材等への適用が検討されつつあります。第127～129回大会では、「難燃性マグネシウム合金展伸部材創製のための最新技術開発1～3」が企画され、合金設計技術、塑性加工技術、材料モデルの開発や変形特性の解明、接合技術、表面処理技術等について活発な議論が行われました。本テーマセッションにおきましても、難燃性マグネシウム合金展伸部材を作製するための最新の研究成果を広く募り、討論を通じて、今後の方向性を継続的に探ります。

世話人：鎌土重晴（長岡技術科学大学）、清水和紀（三協立山株）、井上正士（不二ライトメタル株）、河部 望（住友電気工業株）、石川 武（株総合車両製作所）、部谷森康親（大日本塗料株）、千野靖正（産業技術総合研究所）、森 久史、上東直孝（鉄道総合技術研究所）

テーマ2：「医療用軽金属材料における表界面制御の現状と将来展望」

趣 旨：金属材料は優れた力学的性質・信頼性を示すことから多くの医療機器に利用され、体内埋入部材では、その約80%を占める。TiやMgは、Co-Cr合金等と共に主要な医療材料であり、「軽い」、「強い」だけでなく、骨伝導性や生分解性といった特徴的な機能も併せ持つ。これまで、様々な観点からの合金設計に加え、表面、粒界、異相界面等を積極的に制御することで、上記機能の制御や生体適合性を向上させる試みや超弾性等の機能を発現させる研究が多数行われてきた。さらに、近年の目覚ましい医療技術の進展に伴い医療材料へのニーズが加速的に変化し、研究対象・方向性の多様化も進んでいる。本テーマセッションでは、「表界面」をキーワードとした最新の基礎・応用研究の成果を広く募集し、医療材料における表界面の役割と課題について集中的に議論する。表界面制御の最先端に対する共通認識を得ると共に、これまでの常識を打ち破るような生体組織との調和性に優れた新規な材料創製の可能性やその方法論を展望する場としたい。

世話人：上田正人（関西大学）、三浦永理（兵庫県立大学）、萩原幸司（大阪大学）、黒田健介（名古屋大学）

テーマ3：「シンクロ型LPSO構造の材料科学Ⅲ」

趣 旨：高強度・高耐熱・難燃のLPSO型マグネシウム合金がわが国で開発され、基礎と応用の両面で研究開発が進められています。2011年からは、文部科学省・科研費・新学術領域研究「シンクロ型LPSO構造の材料科学」が5年間の予定で開始され、LPSO型マグネシウム合金の強化相であるLPSO構造相に関する基礎研究がオールジャパンで進められています。2012年と2014年の秋期大会ではテーマセッション「シンクロ型LPSO構造の材料科学Ⅰ・Ⅱ」を企画して活発な議論がなされました。本新学術領域も本年度で終了することから、本テーマセッションでは、本新学術領域研究の最終成果を基にして、LPSO型マグネシウム合金とその実用化、ならびにLPSO構造の原子配列構造、形成機構、力学特性等について議論を深め、次のステージに展開していきます。

世話人：河村能人（熊本大学）、東田賢二（九州大学）、古原 忠（東北大学）、相澤一也（日本原子力研究開発機構）、大谷博司（東北大学）、神山 崇（高エネルギー加速器研究機構）